

リベラ (Libella) はラテン語でトンボの意味です。あおぞら財団はトンボが飛び交うまちの再生を願って活動しています。

# りべら

2018.8

149

号

りべら 2018.8 149号

発行所:公益財団法人公害地域再生センター(あおぞら財団)  
〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階



特集  
2017年度  
あおぞら財団  
年次報告

## 「環境・福祉・防災」の視点から、西淀川の地域再生に取り組む

洋館付き長屋を改修し、地域の交流拠点に！ ゲストハウス&カフェオープン…3

にしよどがアートのまちになる日 みてアート2017…4

呼吸をもっと楽に！呼吸ケア・リハビリテーション…5

## 公害の経験から学び、未来を創る市民を育てる

第5回公害資料館連携フォーラムin大阪…6

「大阪の大気汚染公害から学ぶ」研修パンフ作成しました…7

公害に関する参加型教材、全国で活用される…8

## 公害経験を伝える国際交流

急激に開発が進むミャンマー・ベトナムとの交流を新たに展開…9

## あおぞら財団の2017年度をふりかえって…10

ご支援の御礼…11

忙中一筆 岩本一美さん…12

タンデム自転車を使った西淀川フィールドワーク中、淀川に立ち寄ったときの1コマです。この青空を次世代に引き継いでいきたいです。(2017.10.8、JEEF主催「公害とSDGs」にて)

## あおぞらフォトギャラリー



@yuzo.hirai西島水門 #淀川管内河川レンジャー #西島水門 #矢倉海岸 #おもろいわ西淀川 #淀川(2018.5.6 Instagramへの投稿より。災害から西淀川を守ります！)



あおぞら財団では西淀川区内中学生の職場体験を受け入れています。佃中のお二人がゲストハウス「いこね」のお掃除をしてくださいました(2018.6.7)



滋賀県では今年の4月からタンデム自転車の一般道走行が可能になりました。そこで、大阪でタンデム自転車を楽しむ会(事務局・あおぞら財団)のメンバーで、琵琶湖の周りをサイクリングしてきました。タンデム自転車7台。(2018.6.2-3)

## お知らせ

・ちゃんと走ろう！(自転車の適正な利用)  
・もっと自転車レーンを！  
<http://cycleweb.jp/cyclepicnic/>

### ●第13回 御堂筋サイクルピクニック

ママチャリでもロードバイクでもミニベロでも、どんな自転車でも参加可能です。

メイン会場では、「自転車マーケット」「ランチ・カフェ」「自転車試乗会」「抽選会」などを開催予定です。

・日時:2018年9月17日(月・祝) 10:00~15:00 雨天決行

・場所=集合・解散/大阪・中之島公園

・参加費=アピール走行協力金500円

主催:自転車文化タウンづくりの会

企画・運営:御堂筋サイクルピクニッククラブ

事務局:あおぞら財団



## あおぞら財団とは

〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階  
(TEL)06-6475-8885 (FAX)06-6478-5885  
電子メール:webmaster@aozora.or.jp <http://aozora.or.jp/>

1960年代から問題となった大気汚染公害によって、多くの人が健康被害を受けました。その責任を問う西淀川公害裁判(1978~1998)では公害患者が勝利しました。患者は「手渡したいのは青い空」を願い、裁判の和解金の一部を使って1996年にまちづくり組織・あおぞら財団を立ち上げました。まちづくり・資料館・環境学習・公害患者の保健・国際交流の事業を行い、持続可能な地域づくりに取り組んでいます。

## あおぞらビル

### 【1F】地域交流スペース「あおぞらイコバ」

会議、ギャラリー、コンサート、上映会などにご利用いただけます。  
午前:1,000円/午後:1,300円/夜間:1,300円/全日:3,000円

### 【5F】西淀川・公害と環境資料館(エコミュージム)

西淀川公害や環境について、地域の歴史などが知りたい人はぜひお越しください。【環境教育等促進法にかかる「体験の機会の場」認定施設】

開館日 月曜日と金曜日(10:00~17:00) / 要事前電話予約

●いずれも、予約・お問い合わせは4F事務所へ

## 会員・寄附募集

あおぞら財団への寄附や賛助会費は、税制上の優遇措置があります。

●賛助会員 会員の方には機関紙「りべら」などをお送りします。

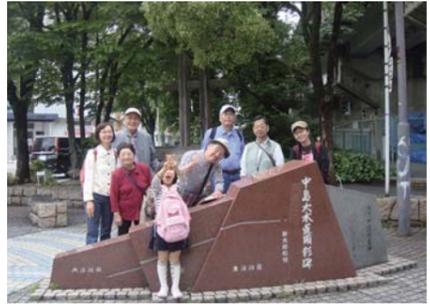
【年会費】個人:年一口5,000円、学生:年一口2,000円、  
法人・団体:年一口10,000円

### ●会費・寄附の振込先

\*郵便振替口座 00960-9-124893 加入者名:あおぞら財団

\*三菱東京UFJ銀行 歌島橋支店 普通通 3764689

口座名義:あおぞら財団賛助会員



特集  
2017年度  
あおぞら財団  
年次報告



あおぞら財団では、まちづくり、資料館運営・研修、公害患者の保健、国際交流といった多岐にわたる活動をしています。今号は2017年度年次報告書として、昨年度の事業の一部をご紹介します！

すべての事業についての詳細な事業報告書は、あおぞら財団のホームページで公開しています  
(<http://aozora.or.jp/johou>)。



あおぞら財団の活動には大きく分けて3つの分野があります。

1.

「環境・福祉・防災」の視点から、西淀川の地域再生に取り組む

2.

公害の経験から学び、未来を創る市民を育てる

3.

公害経験を伝える国際交流



多くの人的ご協力を得て開発した参加型教材を全国で使ってもらえています。西淀川の経験を追体験した学生が、授業に入り込んで熱く語っている姿を見て感無量でした。(栗本 知子)



思い出のこと。真夏の壁塗り、子どもたちとの自転車での渡船めぐり、放課後等デイサービスのメンバーと自転車で走った「しまなみ海道」…で大型バンを一人、緊張しまくりながら運転。これからも仕事は体で覚えていきたいと思ひます。(鎗山 善理子)



正職員になって半年経ってから迎えた2017年度。右も左もわからず大混乱。空回りして周りにご迷惑をかけたことも。NPOとして私は何ができるんだろう？と悩みは続いています。防災・交通・呼吸リハでNPOならではのことをやっていきたいです。(谷内 久美子)



2017年度は、ゲストハウス&カフェがオープン。部屋の掃除・中庭の草刈りから始まり、オープン前夜まで続いたDIY改修、はじめての店員体験(といっても皿洗い)や多文化交流。その後も続く、新たな出会いとハプニングの日々、ふりかえって、全てに感謝！(藤江 徹)



大阪での公害資料館連携フォーラム開催は夢のようでした。人権教育と環境教育の対話、企業の立場など、皆さんが思うままに発言できる安全な場所を運営でき、地域再生の一つの形が示せたかなと思います。(林 美帆)

職員より

1. 「環境・福祉・防災」の視点から、西淀川の地域再生に取り組む

# 洋館付き長屋を改修し、地域の交流拠点に！ 姫里ゲストハウスいこね&くじらカフェ

研究員 藤江 徹

先生が育った築80年の住宅を「地域のために役立ててくださ」と、提供いただきました。この場所を、西淀川に学び・遊びに来る人、西淀川に元々住んでいる人、新しく移り住んだ人など多様な人々が交流し、新しい「何か」を生み出す場所として活用していきたいと約2年間検討しました。そして中庭と古民家の魅力をいかしたゲストハウスと、地域の人たちがゆつくり時間を過ごせるカフェとして運営していくことになりました。

ことができ寝床ということ、行こうね！の意味を持たせています。「くじらカフェ」は西淀川区の形がくじらの形に似ていること、あおぞら財団はくじらのキャラクターをマスコットに使っていることから名付けました。

2017年の夏から、工事にとりかかり、外壁や内壁は学生等ボランティアの協力を得て、DIYで壁塗りするなどし、9月にくじらカフェをオープンしました。天然酵母のパンやランチ、ケーキ、コーヒーなどの喫茶やイベントでの利用

もっと地域に根ざすには、これからの課題は広報の強化、

充実です。西淀川でもまだまだ知られていません。試行錯誤の中ですが、これから「手渡したいのは青い空」の思いを、もっと身近に、さらに多くの人に広げていく、人と人がつながる交流の場としていきたいと思っています。



姫里ゲストハウスいこね&くじらカフェ

古民家を生かした居心地のよい場づくり  
西淀川も、時代の移り変わりに合わせて町の姿も変わってきました。西淀川公害訴訟弁護団の一人である井上善雄

地域の人が集う憩いの場  
ゲストハウスの名称「いこね」は、憩う



DIYで内壁の壁塗り

得て、DIYで壁塗りするなどし、9月にくじらカフェをオープンしました。天然酵母のパンやランチ、ケーキ、コーヒーなどの喫茶やイベントでの利用

ゲストハウスとカフェの設計をお願いしました

協力者からひとこと

建物の顔はドイツ壁とハーフトインパー風を施し、腰壁は下見板張りとして、洋館付き長屋の魅力を一層引き出しました。カフェで中庭のある長屋の居心地を感じて下さい。



CASEまちづくり研究所 松富謙一さん

1. 「環境・福祉・防災」の視点から、西淀川の地域再生に取り組む

# にしよどがアートのまちになる日 みてアート2017(御幣島芸術祭)

研究員 鎗山 善理子

加を得て、アートを通じた交流が生まれました。開催回数を重ねるごとに規模は大きくなってきましたが、運営資金および運営スタッフが十分ではないため、継続して開催するためには資金やスタッフの獲得、コーディネートが課題となっています。

もと歌島橋バスターミナルをまるごと美術館に

2018年度は、これらの課題の解決をめざしつつ、新しい展開として、もと歌島橋バスターミナルをまるごと美術館にするような取り組みに着手しています。

御幣島芸術祭に2017年から参加。2018年はディレクターとして協力いただいています

協力者からひとこと

もと歌島橋バスターミナルをアートミュージアムに。今年は西淀川区の内外から芸術家が参加し、芸術を体験できる御幣島芸術祭2018を目指します。みんなで盛り上げていきましょう。



巨大絵本作家 山田龍太さん



参加型ワークショップを充実させ、みんなでアート！

フィールドミュージアム構想の具体化を  
西淀川を市民が地域(フィールド)全体から地域の歴史、文化、ものづくりを楽しむことができるフィールドミュージアム構想の具体化事業の一つとして「アートイベント」みてアート」を2013年から開催しています。

アートをきっかけに、西淀川地域に残る様々な資源を掘り起こし、西淀川区の人たちが出会い、交流し、新たな地域文化をはぐくむことをめざし、あおぞら財団が事務局を務めています(主催・みてアート実行委員会、後援：西淀川区役所。助成：大阪市芸術活

## みてアート2017(御幣島芸術祭)開催概要

開催日	2017年11月3日(金・祝)、4日(土)
全体参加者	のべ3,000名
スタンプラリー参加者	778人
参加アーティスト数	25人・団体
作品数	120作品
展示拠点	30ヶ所(うちスタンプラリー拠点15か所)
出店数	44店
協賛	19団体

動振興事業助成金・共同募金配分金)。

連携拠点増でまちの再発見  
2017年度は初めて、もと歌島橋バスターミナルをメイン会場に実施し、多くの参

1. 「環境・福祉・防災」の視点から、西淀川の地域再生に取り組む

# 呼吸をもっと楽に！ 呼吸リハビリテーション

研究員 谷内 久美子



楽しく呼吸会で呼吸体操

です。患者の息苦しさを少しでも楽にし、生活を充実させるために、呼吸リハビリの普及、推進を行っています。

## 新たな試み…呼吸リハビリ人材の活用

この事業では、患者さん向けの「楽しく呼吸会」、医療従事者等向けの「呼吸ケア・リハビリ講習会」、COPD患者の早期発見に向けた「肺年齢測定」を行っています。

新たな試みとして、「呼吸ケア・リハビリテーション指導者養成研修」修了生に、肺年齢測定や講習会の講師としてきてもらいました。肺年齢測定では「息苦しさを専門家に相談

ができた」と、医療従事者等向け講習会では「基礎からわかりやすく教えてもらえ、すぐに実践に使える」と好評でした。また、全国から修了生および地方公共団体の公害健康被害予防事業担当者が集う連絡会を開催しました。最新情報や先進事例を共有し、参加者たちのニーズや課題を把握する場になりました。

他に、今まで使っていたハイ・チェッカーに加えて、より正確に肺の状態を計測できるスパイロメーターを導入しました。

地域に呼吸リハを広げていくことが課題  
呼吸ケアは医療だけでなく、介護の現場でも必要とされていますが、現在



スパイロメーターで肺年齢測定を行う修了生

行っている講習会は医療従事者が中心です。また、肺年齢測定は区役所のがん検診時等に行っていますが、COPDのリスクが高いヘビースモーカー等は検診になかなか訪れません。

2018年度は福祉の現場への普及をケアマネージャーを対象とした講習会の実施、企業と連携したCOPD早期発見の取組み、区の医師会と連携した情報発信などに取組む予定です。

環境再生保全機構「呼吸ケア・リハビリテーション指導者養成研修」修了生として、肺年齢測定、検討会等に協力していただいています。

## 協力者からひとこと

脳卒中の後遺症や骨折後のリハビリテーションに比べ、まだまだ認知度が低く、患者さんにも行きわたっていない呼吸リハビリテーション。継続した普及活動は、とても大切です。



北野病院 リハビリテーションセンター 技師長 理学療法士 本田 憲胤 さん

2. 公害の経験から学び、未来を創る市民を育てる

# 第5回公害資料館連携フォーラムin大阪

研究員 林 美帆

で第5回公害資料館連携フォーラムを開催しました。

大阪でフォーラム開催しました

大阪で第5回公害資料館連携フォーラム(12月15〜17日



公害資料館ネットワーク会議の様子

## 公害を学ぶ意義とは

公害を学ぶ今日的意義を明確にしていくためには、西淀川公害のことだけでなく公害を全体的にとらえ、公害を伝える活動をしている人たちと連携協働することが求められています。そのためにおおぞら財団が「公害資料館ネットワーク」の事務局を担い、大阪

第5回公害資料館連携フォーラムin大阪 概要

基調講演	「記憶の繋ぎ方:場所の力とメモリアル」東 自由里さん
分科会	資料保存「公害資料の活用」 学校「公害と差別を考える」 地域づくり「公害患者が望む「公害の教訓」の活かされ方とは」 公害入門「日本の公害環境問題の克服と裁判の役割」 語り部「語り部からの学びを深める」 企業「企業とともに公害の経験を伝える」



報告する森脇君雄さん

大阪市立大学)を開催しました。182人の参加者となりました。フィールドワークは尼崎と西淀川の2か所で実施しました。

## 人権教育との出会い

今年、人権教育との出会いを目指して企画をしました。人権教育が行ってきた多様な実践を学ぶ機会をつくったことで、「差別」や「語り部」について議論をして、人権問題として共通

点があるという気づき、公害ならではの問題は何かを考えるきっかけになりました。公害を題材として人権教育を展開していく可能性をこれからは深めていきたいです。

また、開催地が大阪ということで、西淀川や尼崎で生じた大気汚染公害や、泉南アスベストの公害を学ぶ機会となりました。西淀川公害については、地域再生と言いつつも公害被害者と行政・企業とのパートナーシップは道半ばな現状が共有されました。

## 公害を語り合う場

公害資料館連携フォーラムは、

公害のことを語り合う場として機能しつつあります。2018年は東京で開催予定なので、SDGsと公害を関連付けていきたいです。



公害の教訓の活かされ方を考える

フォーラムの企画に参加していただきました。

## 協力者からひとこと

公害は人権問題です。公教育での人権学習に位置づけて、個人と社会のかかわりから公害についての学びを深めることができることを、参加者で確認できたと思います。



大阪市教育センター 畑中一成 さん

2. 公害の経験から  
学び、未来を創る  
市民を育てる

# 「大阪の大気汚染公害から学ぶ」 研修パンフ作成しました

研究員 林 美帆



### パンフレット作成

これまで行っていた研修の再検討およびアンケート調査から、ニーズの整理を行いました。また、見せ方については、他団体が行っている研修パンフレットの比較検討を行いました。

パンフレットを12月に開催した公害資料館連携フォーラムまでに3000部印刷し、配布しました。公害資料館および社会教育施設・各地の図書館などに配布したのちに、ホームページで公開しています。

### 社会問題を自分ごと

「西淀川公害」は、公害が有名というよりは公害反対運動の場面を切り開いたこと、地域再生の先鞭をつけたという場面でクローズアップされることが多いです。そのために、あおぞら財団に研修に来るのは、公害を知りたいのか、地域再生を知りたいのか、人権のことを知りたいのか、様々な問題関心が入り乱れていました。その部分を「学び」という部分で再整理して、パンフレットにまとめました。

基本的には「公害」を学ぶのですが、公害を学んで見えてくる様々な課題から、環境を考えた、人権を考えたり、まちづくりを考えたりするのだと思います。一方的なレクチャーでなく、「見る」「聞く」「交わる」「ふりかえる」といった双方向の学びをデザインすることで、社会課題を自分ごととして受け止めることを目指しています。

成果は、2018年度に入ってから、新規の研修の受け入れが相次いでおり、5月6月の土曜日は全部埋まってしまいました。そして、満足度も高いようです。



研修に来て下さい  
今後も研修を受けた方々の、声を生かしてブラッシュアップしてまいります。そして、プログラムの周知して、研修数の増加をめざします。ぜひ、皆さまも研修であおぞら財団をご利用ください。



灘高校 / 池田拓也 さん

西淀川フィールドワークを授業に取り入れて下さいました。

協力者からひとこと

身近な場にある公害問題を「現場」で学ぶことで、生徒は多くの発見をしました。多様な目的に対応できるプログラムですが、特に主権者教育としての可能性を感じます。

2. 公害の経験から  
学び、未来を創る  
市民を育てる

# 公害に関する参加型教材、 全国で活用される

研究員 栗本 知子



淀協新人研修にて(2017.4.5)

多様な立場を  
共に考えるために

3ヶ年かけて取り組んできた、西淀川公害の経験から学ぶための参加型教材開発事業の最終年度は、開発した教材の仕上げです。公害患者だけでなく、企業・行政・地域住民の立場を含めた構造的理解を促す教材をめざしました。

### 全国の教材モニターによる授業

日本環境教育学会や教員集会などで教材を試しに使うモニターを募集し、全国の教育現場で活用していただきました(表参照)。財団職員や教材開発委員によるものも含めると、年に23回、756人の方が体験されたこととなります。

モニターとして手を挙げてくれたのは若手の研究者たちです。公害を体験していない世代の研究者たちが、公害という複雑な社会問題の解決に向けて行動した人たちの経験から学びたいと、関心を寄せてくれました。

### 教材への評価を発信

この教材で学んだ学生の様子について、モニターから寄

表 開発した教材のモニターによる実施状況(8回、202人受講)

内容	日程	参加人数
愛媛大学「住民参加と合意形成」	5月1日	70人
明治大学「環境問題と社会教育」	10月20日	24人
東京農工大学「持続可能な開発のための教育(ESD)」	11月19日	14人
横浜国際大学「ESD入門」	11月20日	8人
東海大学現代教養センター「プロジェクト入門」	11月21日	22人
仙台大学「三谷・岡田合同ゼミ」	12月11日	12人
阪南大学経済学部「専門演習・フィールドワーク実習」	12月21日	20人
国際基督教大学(ICU)「環境教育学」	2月1日	32人

せられた感想をご紹介します。  
野田恵さん(東京農工大学、横浜国際大学)「社会の問題を他人事として捉えている



教材体験会@東京(2017.8.7)

ように見えた学生たちが、この教材を使うことで、自分の無知さや無関心に気づきつつかくなっていた」

松村暢彦さん(愛媛大学)「住民の生活に根ざした公害問題を主体的に考えることができる数少ないすぐれた教材」(学生には)「こうした学習を通じて、『地域の課題解決』の言葉の重みを感じたうえで、自分が社会と向きあう覚悟を決めてほしい」

未来を創る市民を育てる  
これまで公害教育は、どうしてもマイナスの側面を強調してきましたが、教育現場で求められている課題解決能力を育む教育を、公害の経験を通して創り出していくことをめざします。



開発教育協会 / 西あい さん

教材開発で中心的役割を果たして下さいました。

協力者からひとこと

「未来につながる公害教育教材」とすべく試行錯誤の連続。地域の問題が「難しく複雑なもの」から「自分も解決に関われそうなもの」に違って見えてくる教材を目指しました。

# 急激に開発が進むミャンマー・ベトナムとの交流を新たに展開

研究員 藤江 徹

あおぞら財団では、西淀川大気汚染公害の経験を世界、とりわけアジアの人達に伝え、交流することで、新たな被害を未然に防ぎ、現在進行形の様々な公害環境問題とともに解決していくことに取り組んでいます。



西安市でマスクを配布している様子

中国にPM2.5対応マスクを送りました。2017年に来日された、章涛氏（西安市同大環境汚染防治研究所代表）に、pm2.5対応のマスク200枚をお送りしました。中国では、大気汚染による健康リスクについて、まだまだ浸透しておらず、呼吸器官の病気を発症する人が少なくありません。特に低所得者層（ホームレス、出稼ぎ労働者、重度汚染の地域の住民）は、汚染から自分の身を守ることができず、汚染に曝されています。章氏の団体は、そういった人々にマスクを配り、マスクの選び方や効果、使い方を教える啓発活動を行っています。また汚染地域を撮った写真展を中国全土で開催しています。

ミャンマー・ベトナムにて、交流活動を始めました。アジアをはじめとして急激に開発が進む地域における今後の交流の可能性を探るために、2017年度は、ミャンマー・ベトナムで、現地におけるカウンターパートとなる環境NGO、日本側の相談役となってくれる専門家（弁護士、都市計画コンサルタント、大学教授）と協働で現地調査、意見交換を行いました。経済成長が進むミャンマー・ベトナムでは、知識層やNGOの中では、公害への懸念・環境への意識が高まる一方、都市インフラや環境データの不足、環境教育などの実践が進んでおらず、一般市民の中での公害や環境への問題意識は広がっていないようです。

ヒアリングを進める中で、これまでに公害を経験・克服してきた日本での取り組み、特に公害や環境問題に対する市民の取組みについて多くの関心が寄せられました。今後は、日本の公害経験や環境学習の取組みを翻訳・発信し、継続的な交流につなげていきたいと思っています。

現地調査のコーディネートをお願いしました

協力者からひとこと

アジア諸国の環境問題は、当地の問題であると同時に、グローバルな繋がりを有する問題でもあります。環境問題の状況や構造を理解し、改善への途を共に考えていきたいと思っています。



フェリス女学院大学国際交流学部 准教授 知足章宏 さん



ベトナム・LIVE&LEARNの皆さんと



ミャンマー・環境セミナー

## あおぞら財団の 2017年度を ふりかえって

あおぞら財団 理事長  
村松 昭夫



**財団の維持・発展にむけて**  
あおぞら財団は、公害地域の再生をめざして設立され、自動車公害の根絶や、地域交通を人や環境にやさしい低速交通（自転車や徒歩など）に転換する取り組みなどを行ってきました。最近では、高齢者問題、地震や水害などの自然災害の頻発を踏まえて、「環境・福祉・防災」をキーワードとして、これらを有機的に結びつけた地域づくりの力を入れています。あおぞらビル1階を交流拠点「いこば」として整備するなど、地域との結びつきを深める活動や、公害経験を継承する活動などにも取り組んできました。しかし、その一方で、慢性的な資産減少など財団の維持・発展にとって深刻な問題にも直面しています。

**新たなチャレンジ、広がる繋がりが**  
2017年度を振り返れば、無償で提供していただいた古民家を、財団関係者の物心両面の支援を得て全面改装し、9月に「くじらカフェ」、12月に「ゲストハウスいこね」をオープンしたことが最も大きなトピックスです。地域の方々や国内外からの利用者が徐々に増えており、今後は、財団の研修機能の充実とも連携させ、運営を軌道に乗せるとともに、財団財政改善への寄与も期待されています。



公害資料館ネットワーク会議の様子

**専門的知見から評価を**  
2017年度には、個別事業を専門的知見から評価し、事業内容の見直し・統合・新規事業の開拓、組織内ガバナンスの強化を図る方策として「事業・研究評価会議」を発足させました。ここで議論を重視し、事業内容の思い切った大胆な見直しに活用していきたいと思っています。

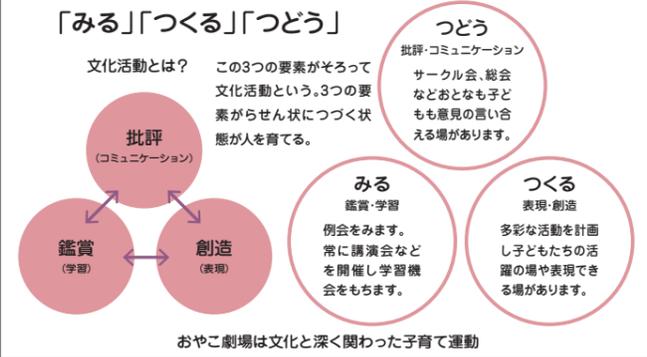


●生まれ育った街「福岡」  
1964年(昭和39年)東京オリ  
ンピック、新幹線開通の年に、福  
町で生まれました。悪臭のどぶ  
川だった大野川のすぐ近くに家  
があったので、悪いことをした  
時には母親に「大野川に捨てる  
で」と言われて、大泣きしたこ  
とを覚えています。その大野川  
が、小学校6年生のときに緑陰  
道路に生まれ変わりました。

# 忙中 筆

西淀川が文化あふれる  
やさしい街になりますように  
出会いを大切にアクティブに活動中！

まっさらのオレンジ色の道路  
を、福小学校前から、西福岡公園  
まで鼓笛隊パレードをしたこと  
が懐かしいです。  
豊中方面の高校へ進学して、都  
会の下田舎みたいな福岡と  
の違いを肌で感じ、カル  
チャーショック！ところが、  
が、おやこ劇場との出会い  
で、自分の故郷を誇れるよ  
うに、子ども達にもそう  
なってもらえたらと思うよ  
うに自分の中に変化があり  
ました。



文化で子育て  
「にしよどおやこ劇場」  
文化なんていう言葉が似  
合わない西淀川だと思っ  
ていましたが、活動するに  
つれ、素敵な人材や財産が



岩本 一美 (いわもと かずみ)  
プロフィール: 「にしよどおやこ劇場」運営委員長、「西淀川区こども・子育て支援連絡会」会長

●人生、誰と出会うか、何と出会うか  
どれだけすばらしい人や文化や芸術との出会いがあったかが、自分の財産だと思います。待っていても出会いはありません。幼い子の育児中は、子どもがいるからできないと嘆いているよりも、子どもがいるからこそできることが山ほどあることに気づいてほしいです。おやこ劇場に入ればわかります(笑)。毎日楽しく、機嫌よく過ごさす！これが一番です！

●自己肯定感120%で大笑い  
あおぞら財団企画の釜石ツアーに西淀川から参加したメンバーで集まったとき、私の「私と同じ人間ばっかりいたら世界中和になると思う」の発言に、大爆笑！。私は、もちろん短所だらけですが、長所も短所も全部含めて、自己肯定感120%です(笑)。周りの方に迷惑をかけているかもしれせんが、これからは「我が道をまっすぐに行く！」を貫きたいと思っています。

## 2017年度 ご支援の御礼

お助けボランティアとしては、計26人の皆さんからご支援いただきました。  
インターン生は5人を受け入れました。  
あおぞら財団の活動は、多くの方からのご寄附・ご寄贈によって支えられています。  
特に2017年度にはこの他にも、姫里ゲストハウス「いこね」&「くじらカフェ」へのクラウドファンディングや物品提供という形で多くのご支援をいただきました(147号参照)。皆さま、本当にありがとうございました。

### お助けボランティア (敬称略・順不同)

- |        |              |       |
|--------|--------------|-------|
| 飯島 宏司  | 田島 陸弥        | 山野 仁寛 |
| 岡崎 久女  | 鶴 実折         | 吉岡 秀紀 |
| 川崎 美都  | 長洲 智子        | 渡辺 礼音 |
| 川崎 美美乃 | 藤江 恭子        | 岡村 裕成 |
| 川崎 由紀子 | 手づくり工房「Moku」 | 吉田 秀樹 |
| 榊原 香織  | 藤本 真衣        | 山田 奈央 |
| 佐々木 尊琉 | 松尾 直和        | 須藤 三雲 |
| 左成 志朗  | 宮本 由貴        | 野呂 喜也 |
| 柴崎 すぐる | 山下 晴美        |       |

### 寄附・寄贈者 (敬称略・順不同)

- |        |        |        |
|--------|--------|--------|
| 青木 洋介  | 飛松 康雄  | 吉永 利夫  |
| 井関 和彦  | 中島 晃   | 吉村 良一  |
| 井田 徹治  | 長瀬 文雄  | 和田 美頭子 |
| 伊藤 卓次  | 中村 昌史  | 功刀 恵美子 |
| 井上 善雄  | 早川 光俊  | 鹿野 都子  |
| 遠藤 宏一  | 福田 珠己  | 式地 清子  |
| 奥田 みのり | 藤江 めぐみ | 植田 喜代子 |
| 小田 康徳  | 宮本 憲一  | 新田 保次  |
| 黒田 主税  | 村上 義和  | 石井 琢也  |
| 酒井 健一  | 村田 稔   | 浅井 真二  |
| 清水 万由子 | 村松 昭夫  | 蔵本 幸治  |
| 高田 研   | 森山 正和  | 柏原 愛子  |
| 高橋 富男  | 山本 一一  | 脇田 武利  |
| 田代 優秋  | 湯本 浩之  | 向井 雅之  |

### インターン生 (敬称略・順不同)

- 谷 彩可 (京都女子大学発達教育学部教育学科)  
末吉 智哉 (大阪経済大学経済学部経済学科)  
高橋 樹 (大阪経済大学経済学部経済学科)  
松尾 直和 (桃山学院大学社会学部社会学科)  
柴永 康平 (桃山学院大学社会学部社会学科)

- 一般財団法人 淀川勤労者厚生協会  
株式会社 かんきょうムーブ  
株式会社 山崎シャーリング  
パシフィックコンサルタンツ 株式会社  
浜一事務機器販売 株式会社
- 浜田化学 株式会社  
水俣市立水俣病資料館  
山崎スチール 株式会社  
四日市再生「公害市民塾」  
Re Shop KANAU

## 財政状況

(2017年4月1日～  
2018年3月31日)

		(単位:円)
収入	資産運用益	3,680,484
	会費	1,157,000
	受託金等	27,513,945
	寄付金	1,574,161
	雑収入	9,042,066
	基本財産取崩収入	35,800,000
	積立金取崩収入	300,000
	貸付金・保証金戻収入	325,000
合計	79,392,656	
支出	事業費	51,414,586
	管理費	9,379,602
	積立金取得支出	26,417
	固定資産取得支出	11,442,765
貸付金・保証金支出	538,000	
合計	72,801,370	
当期収支差額	6,591,286	
前期繰越収支差額	5,039,607	
次期繰越収支差額	11,630,893	

## 賛助会員

●2017年度  
(2018年3月末時点) (件数)

個人	115
学生	1
法人	16
団体	11

## ありがとうございます

(2018年4月～6月 敬称略・順不同)

### ●入会

菱山 隆二

### ●お助けボランティア

長洲 智子  
吉田 秀樹  
左成 志朗  
岡崎 久女  
山下 晴美

### ●寄附・寄贈者

柏原 愛子  
早川 光俊  
脇田 武利  
新井 直  
遠藤 宏一  
長瀬 文雄  
清水 万由子  
中島 晃  
飛松 康雄  
古賀 崇

## 緑道散歩

西淀川区内を貫く全長3.8kmの大野川緑陰道路。区民にこの緑道の風景を紹介します。



今年の佃中学校からの職場体験では、研修の写真記録のお仕事もしてもらいました。この写真は、灘高校生が緑陰道路をフィールドワークしてい

る様子を、佃中のO君が撮影してくれたものです。雨上がりの緑道の緑がきれいです。

## スタッフツイッター 編集後記

栗

年4回発行している『リべら』の内の1号を、昨年度から年次報告書として編集しています。今号では、財団職員や協力者の方の顔が見える編集を試みましたが、いかがだったでしょうか？今年には西淀川公害裁判の最終和解20年。設立時の初心忘れず活動の充実をめざします！

## リべら

No.149 2018年8月号(季刊1日、年4回発行)

発行所:公益財団法人公害地域再生センター(あおぞら財団)  
編集人:栗本 知子  
〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階  
TEL 06-6475-8885 FAX 06-6478-5885  
http://aozora.or.jp/ webmaster@aozora.or.jp  
デザイン:(株)バード・デザインハウス  
会員の購読料は会費に含まれています。  
本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

あおぞら財団  
Facebookページ  
「いいね!」を  
押してくださいね。



## スタッフから一言

須藤 彩(すどう あや)



2016年から、あおぞら財団でアルバイトをしています。姫居ゲストハウスいこね&くじらカフェでは、主にチラシや名刺、メニュー作りなど広報物の制作をさせて頂い



ています。制作をするにあたり、気を付けているのは誰が見ても分かりやすい事、ターゲット層にあったデザイン、コスト面(これが一番大変)です。くじらカフェのメニューを作成した時は手作り感満載のくじらカフェの可愛いイメージを損なわないようにコラージュっぽく手書き風なメニューにしました。写真を入れるフォトアルバムにメニューを入れてコストがなるべくかからないように工夫もしました。



内装をはじめ、椅子やテーブル、棚なども手作りなんです。お店へ行く機会があれば是非そのこだわりも見て頂けたらと思います。

## 「リべら」に広告を掲載しませんか？

年4回(季刊)発行の「リべら」は、あおぞら財団会員様をはじめ、西淀川の公共施設・店舗など、様々なスポットに配布しています。あおぞら財団の活動にご賛同いただける方からの広告の掲載を募集中です。  
【リべら広告掲載費】  
中面1/9頁:1万円/回、中面1/3頁:3万円/回、中面 全面:9万円/回  
※お問合せ先:あおぞら財団まで TEL06-6475-8885

## 西淀川菜の花プロジェクト

～エコでつながる西淀川～



現在西淀川区内外約50箇所で、廃油を回収しています。回収団体募集中。

エコでつながる  
西淀川推進協議会  
事務局:  
浜田化学株式会社  
06-6409-1555



広告

ディサービスセンター

# あおぞら苑

あおぞら御膳

あおぞらの湯

2006年10月1日にディサービスセンターあおぞら苑は産声を上げました。西淀川公害裁判で四半世紀命をかけて闘った患者さんや家族のみなさまの思いが、ひとつの形になったのがディサービスセンターあおぞら苑です。公害患者さんも高齢になり日々の生活を援助するために、また地域のみなさまが誰でも利用でき、「西淀川に住み続けて良かった。」と思えるようにとの思いがたくさん詰まった場所にしたいと思い設立しました。

【お問い合わせ】  
TEL:06-6475-0111 FAX:06-6475-0114  
URL:http://aozoraen.com/  
運 営:社会福祉法人 あゆみ福祉会

◆あおぞら苑(事業所番号 2791000090)  
〒555-0032 大阪市西淀川区大和田5丁目7番14号  
開所曜日:月曜日～土曜日(祝日は開所) 利用人数:1日18人

◆あおぞら苑II(事業所番号 2771002173)  
〒555-0031 大阪市西淀川区出来島1丁目2番4号  
開所曜日:月曜日～土曜日(祝日は開所) 利用人数:1日25人

Hamada Kagaku 広告

## 廃棄物でお困りなら 浜田化学のコンシェルジュに お任せください

廃食用油  
リサイクル  
使い終わった廃食用油

食品残渣  
リサイクル  
加工中に発生した食品残渣

廃棄物  
リサイクル  
その他の廃棄物

お客様に最適なメニューをご提案いたします。

詳しくはホームページをご覧ください。 浜田化学 コンシェルジュ 検索

浜田化学株式会社 ☎06-6411-3457 <http://www.hamadakagaku.co.jp>

広告

医療費の支払でお困りの方 相談下さい。「無料低額診療」実施中！

## ～「いのちの平等」をめざして～

差額室料をとらず、24時間365日 医療と介護

・西淀病院  
・のざと診療所  
・千北診療所

・ファミリークリニックあい  
・姫島診療所  
・ファミリークリニックなごみ

・介護老人保健施設よどの里  
・在宅総合センターらくらく  
・社会医学研究所

WHO認証  
「地域健康増進支援事業所」  
認証施設

看護師  
募集中!

一般財団法人淀川勤労者厚生協会 TEL 06-6471-0496 URL www.yodokyo.or.jp